

令和5年4月12日(水)に開催した令和5年度第1回公立大学法人静岡文化芸術大学役員会の結果は次のとおりである。

1 議案

(1) 専任教員の採用について

ア 趣旨

事務局から、令和6年4月1日付け採用予定の専任教員8名の内、4名の採用募集を行う旨の説明があった。残りの4名については次回の役員会で審議予定である。役員会の議決の後、公募を開始し、10月の役員会で採用候補者の審議・決定を行う予定である。

イ 主な意見・質問

- ・演劇学(西洋)の教員だけ、応募条件に「2年以上の教育経験を有すること」が入っていて、他の分野は「教育経験のあることが望ましい」となっているのは何か理由があったのか。
→芸術文化学科は、日本では独特の構えを持った学科であり、演劇の舞台裏の事情にも通じていて、しかも教えられる人という少し高い要求をしている。

ウ 審議結果

審議を踏まえ、議決された。

2 報告事項

(1) 認証評価結果について

事務局から、令和4年度に実施した大学機関別認証評価について、一般財団法人大学教育質保証・評価センターから評価結果が報告された。また、認証評価結果を受け、評価センターから指摘された事項について、今後の改善に向けた取組についても併せて報告された。

(2) 令和5年度入学者選抜結果について

事務局から、令和5年度入学者選抜結果について報告があった。学部志願者数については全体の志願者数は1468名と、昨年度(1892名)に比べ424名減少した。その要因として、「隔年現象」による影響、受験生の「共通テスト離れ」による影響などが考えられる。また、特筆すべきこととして、入学者全体における男子の割合が、17.4%(令和4年度)から23.4%(令和5年度)と増加したこと、前期日程における歩留率は93.7%と、平成12年の開学以来、最も高い歩留率であったことがある。

(3) 令和4年度就職状況について

事務局から、令和4年度就職状況について報告があった。学部全体の就職率は96.3%で、昨年比約0.2ポイント減となり、昨年度の96.5%とほぼ同じ数字となった。文化政策研究科は昨年度の94.5%から3.5%増加した。

就職先については、文化政策学部は、製造業、情報サービス業への就職が増えた。デザイン学部は建設業がやや増加し、製造業がやや減少した。

地域別については、県内就職率が35.9%と、昨年度の39.1%よりやや落ちた。特にデザイン学部の県内就職率の下落が影響した。

以上